

令和3年度第1回江東区みどりの基本計画推進会議 議事録

日 時	令和3年7月29日(木) 14:00~16:00
場 所	江東区文化センター6階 第1・2会議室
出席者 (対面形式)	<p>〈委員〉</p> <p>島田 正文 (日本大学 生物資源科学部 暮らしの生物学科特任教授)</p> <p>矢部 正治 (公募区民)</p> <p>大輪 安信 (公募区民)</p> <p>美濃又 哲男 (みどりネット Koto 代表)</p> <p>須永 侑子 (NPO法人江東区の水辺に親しむ会 理事長)</p> <p>〈委員(区職員)〉</p> <p>杉田 幸子 (土木部長)</p> <p>山田 英典 (河川公園課長)(代理:田中工務係長)</p> <p>〈事務局〉</p> <p>管理課:伊藤(管理課長)、七條、吉木、松井</p>
出席者 (オンライン形式)	<p>〈委員〉</p> <p>柳井 重人 (千葉大学 大学院園芸学研究科教授)</p> <p>早川 鋭 (NECソリューションイノベータ株式会社)</p> <p>渡部 陽介 (清水建設株式会社 技術研究所)</p>
書面形式	<p>〈委員〉</p> <p>早坂 治子 (東陽6・7丁目町会 会長)</p> <p>野尻 紀美恵 (越中島小学校校長)</p> <p>〈委員(区職員)〉</p> <p>油井 教子 (企画課長)</p> <p>谷川 寿朗 (営繕課長)</p> <p>加川 彰 (地域振興課長)</p> <p>渡邊 貴志 (保育課長)</p> <p>関戸 佳子 (温暖化対策課長)</p> <p>立花 信行 (都市計画課長)</p> <p>大野 俊明 (道路課長)</p> <p>中尾 英樹 (施設保全課長)</p> <p>半田 智隆 (学校施設課長)</p> <p>飯塚 雅之 (指導室長)</p>
次第	<p>議題</p> <p>(1) 各施策の進捗について</p> <p>(2) みどりの取り組みについて</p> <p>(3) みどりの基本計画推進会議の部会設置について</p> <p>(4) その他</p>

配布資料	<ul style="list-style-type: none"> • 次第 • 名簿 • 資料1：令和3年度 各施策進捗管理表 • 参考1：令和2年度 各施策の取組状況（令和3年7月更新） • 資料2：江東区みどりの基本計画推進会議設置要綱（改正案） • 資料3：みどりの基本計画推進会議の部会設置について • 各委員資料 • 意見等回答様式
------	---

開会

議題1 各施策の進捗について

（事務局）

（資料1・参考1説明）

（委員）

「みどりを守り育てる財源の確保」の項目の「みどりのボランティア活動支援事業」について、具体的な内容を教えてもらいたい。

（事務局）

ふるさと納税による寄付金を、「みどりのボランティア活動支援事業」に充当していることを記載している。

（副会長）

街路樹等維持管理事業について、区全体の街路樹の管理や魅力づくりの方針・計画はあるのか。

（事務局）

区全体、路線ごとの管理や魅力づくりを記した計画は今のところない。都度現場を確認し必要な対応を行っている。ただし、街路樹の維持管理は区として課題と認識しており、公共の樹木の維持管理のあり方について別の機会を通して研究しているところである。報告できる内容であれば推進会議等で伝える。

（以下意見なし）

議題2 みどりの取り組みについて

各委員

(各取り組みについて説明)

(事務局)

コミュニティガーデンについて、事業を展開していく中で感じている課題や今後の方向性はどのように考えているか。

(委員)

課題の1つは区民への広報である。昨年度作成した「コミュニティガーデンマップ」を、周辺にある保育園や福祉関係の団体へ配布したいと考えているが、個人情報関係で難しいと聞いている。そのため広く配布できるよう各部署等に情報発信を支援してもらいたいと考えている。

2つ目は、区内のみどりの活動をしている人同士の交流が不足していることである。それぞれの地域の活動について、発表の場をつくり、活動を共有できるとよいと考えている。

(事務局)

再生の杜(清水建設株式会社技術研究所)について、今後の展開やビジョンを教えてください

(委員)

これまでグリーンインフラとして、生物の視点で良好な空間を作っていくことに注力して取り組んできたが、従業員や周辺住民へ豊かさをどのように提供できるかといった点が課題と感じており、地域の人々と連携を広げていくことが展開の方向性だと思っている。生物多様性という社会課題に対しては取り組んできたが、コロナ禍の影響で、これまでより多くの人たちが地域に出てきており、その人々に対して何ができるかを考えている。また、教育の面では、身近な自然を活かして何か提供できないか、模索している。

(委員)

コミュニティガーデンや水辺の活動について、コロナ禍であることから、イベントは制限されていると思うが、一方で、街を歩いている人やサイクリングをしている人など、みどりを利用する人は増えているようにも思う。これまで参加していなかったような人や新たなニーズを感じていることがあれば教えてください。

(委員)

コロナ禍で新たなニーズが生まれたといった実感は今のところない。亀戸駅前の花壇活動では、協議会等の人と話し合いながらチラシ等で広報したところ、10人から30人ほどまで増えた。広報をしっかり行うことが、コミュニティガーデンについては重要であると考えている。

(委員)

東大島の旧中川・川の駅では冬鳥がたくさん来ている。リバーガイドの事業で冬鳥について案内をすることもあり、子どものうちから親しめるといいと考えている。水辺空間というのは、日常的に使ってもらうことが大事だと思っている。このコロナ禍で親水公園には子どもたちが集まっており、自分の居場所として身近な水辺が使われるといいと思っている。

(会長)

グリーンインフラプラスの活動の中で、SDGsにかかわるものがあれば教えてもらいたい。

(委員)

SDGsの中では、地域課題に貢献することが重要と考えており、企業単独でなく住民と共通認識を持てるものを模索している段階である。

(副会長)

それぞれの活動について、趣味ではなく地域に貢献しているものであることに驚いている。また、技術研究所が自身の研究を地域に還元していることやフジクラ木場千年の森、SEGES（シージェス：社会・環境貢献緑地評価システム）の認定を受けている企業（※）など、企業の取り組みが地域に関係していることが江東区の強みである。今後は、各企業・団体の活動が、どのように共有されていくかが重要であり、共有することで何か生まれるといいと思う。

※江東区でSEGES認定されている取り組み：

アーバンドックパークシティ豊洲、晴海アイランド・トリトンスクエア、東京ワンダフルプロジェクト

(以下意見なし)

議題3 部会設置について

(事務局)

(資料2・資料3説明)

(委員)

部会に関して、江東区に生息している様々な生物の情報がどこにも集約されていないこと、区民へそのことが伝わっていないことなど、生物多様性について課題として追加してもらいたい。

(事務局)

生物多様性の課題を加えて7つの中からテーマを絞っていきたいと思う。

(会長)

事務局として扱うことができるテーマの数を教えてもらいたい。

(事務局)

まずは1つに絞って確実に進めていきたいと考えている。

(会長)

課題としてこれだけの意見があるため、テーマから外れたとしても、検討しないということではなく行政としては対応していくということか。

(事務局)

部会のテーマにならなくても、区として対応していく。

(委員)

市民とのつながりや市民同士のつながり、広報が重要であると考えており、情報の発信と交流については、オンラインを活用しながらであればコロナ禍の中でもできる。そういった動きの中で広がりができると思う。

(会長)

1つの部会がうまくいけば、今後2つ以上の部会を動かすことも可能だと思うが、まずは1つをうまく回せばいいと考えている。また喫緊の課題があれば、臨機応変に部会を立ち上げることもあるかと思う。

(委員)

江東 CIG ビジョン推進会議という区内の造園会社が集まった組織が作成した江東区の街路樹のマップなど、そういった情報の共有ができていない。また、造園の専門家にも参加してもらい、意見を入れることができると思う。

以前は、都庁で都民の世論調査をすると、緑化は常に要望のベスト3に入っていました。しかし、現在は入っていません。その原因の一つとして、みどりの必要性が十分に理解されていない、発信できていないことがあると思う。部会ではいろいろな人に入ってもらって幅広い意見をいただければと考えている。

(会長)

今の意見については、対応可能か。

(事務局)

設置要綱第6条の5項や7項で専門家の意見を取り入れることは可能である。

(委員)

部会については、議論した結果出た課題を推進会議に上げるといった、推進会議の下部組織をイメージしていた。また、部会の開催回数については、準備会含めて年内に2回開催するということか。

(事務局)

部会の位置づけとしては、推進会議で上がった課題を機動的に解決するための検討・調査を行うものと考えている。開催回数はメンバー構成等によっても変わるものだと考えている。

(会長)

推進会議の委員の任期は、2年間なので今年度が最終年度となる。

また、準備会を設定したことは、部会が区の押し付けではなく、推進会議の委員が主体となる意図があると感じている。

(事務局)

任期は2年だが、再任は妨げないと要綱に記載があるため、引き続き会議の委員になることは可能である。部会については推進会議の委員以外も参加できるため、引き続き参加することは可能である。また、部会は期限を定めていないため、任期には左右されないと考えている。部会は行政主体でなく、委員が主体で進め、行政はできるところで支援するということを想定している。

(副会長)

基本計画を推進していくために、部会を設置することにより仲間を増やしていく、ということが重要な目的の一つだと考えている。また、下部組織というのはあくまで形のうえで、部会で議論したことを、推進会議でオーソライズするというのが一つの形だと考えている。もう一つは部会で気づいた課題などを吸い上げて施策として取り上げるパターンもあると思う。以前関係した取り組みの例として、里山活動の担い手を増やす必要があるという課題があり、ボランティア活動入門講座を立ち上げ、1回目の講座は部会でやるという実践も含めた提案があった。この提案を推進会議でオーソライズをとり実施した。この部会は2・3年で解散したが、その精神や当初の実験的な試みは継承され、施策として20年続いている。単に推進会議で検討してほしいことを部会で検討してもらい、上(推進会議)へ報告する、といったものだけではなく、実践を重ねて評価するといったことが大事だと考えている。みどりの活動を行っている人々を巻き込みながら、そこでのアイデアを実践して、それを推進会議でオーソライズして施策に展開していくというプロセスが大事なのだと思う。江東区の強みは、活動の裏でも多くの人々が動いていることであり、その人々を活かせる部会にしていくべきだと思う。

(委員)

部会で検討した議題を実現していくためには、仕組みや体制を引き継いでいくことが重要だと思っている。部会のメンバーには市民や企業が入っていくとは思いますが、区にも負担してもらう必要があると考えている。また、場合によっては予算措置も必要だと思うが、このことについてはどのように考えているのか。

(事務局)

予算措置については、約束はできない。体制や仕組みのバックアップについては、区も事務局として入っていくため、役割を果たしていく。

(委員)

課題は、これまでの話から「つなぐ」や「つながり」ということがキーワードになると感じている。その議論を深める場合は、各取り組みの現場の方が学ぶことが多いと感じている。各取り組みでは、すでに現地ツアーを実施しているものもあると思うが、そういったものと連携してワークショップをしていくなど、現場で意見を出し合うことで、実情を反映することができ、また課題解決の糸口が見つかりやすくなると思う。

(委員)

部会はボトムアップの組織とした方が良いと思う。課題を絞るのではなく、課題を見つけ

出し、テーマを決めていく部会にしたほうが、機動的に動くことができるのではないかと考えている。例えば、テーマを情報発信とした場合、街路樹などについて議論できなくなる可能性があると感じる。

(事務局)

テーマを部会が決めていくとした場合、推進会議と切り離されてしまう懸念がある。そういった意味では、1つテーマとして、柱を決めたほうが良いと考える。

(会長)

これまでの意見をまとめると、課題は①が多く意見として挙がっているのではないかと感じている。うまく連携できれば、交流も発信もできるのではないかと思う。

(副会長)

会長と同じ考えであり、課題の①～③が該当すると思っている。交流を深める中で、地域課題や行政では難しい実践を検討し、実践のためのテーマや企画を立てることが部会の大きな役割だと考えている。その前提として、仲間を集め、実情を現場で知って、意見交換をすることが重要だと思う。交流や地域課題がある中で、どのような企画ができるのか、その過程で情報発信やポテンシャルの高い地区での実践ができるのであれば進めてもいい。全区的に施策として展開できるような話であれば、推進会議に上がってくるなども想定される。交流・広報・企画などがキーワードになるのかと思う。

(会長)

これまでの議論をまとめると、テーマをこの場で決めることはかなり難しいと感じている。今回はキーワードをあげて、それをもとに部会準備会でテーマを決めるのはどうか。

(事務局)

ワンフレーズでテーマを決めるということは、今の流れでは難しいと感じている。これまであがったキーワードを基に準備会でテーマを絞り込んでいきたい。

(会長)

これまでの議論をまとめ、キーワードを事務局と会長、副会長で決め、部会準備会で議論するという事はどうか。

委員各位

(全員賛成)

(委員)

部会の活動については、基本的には平日に開催するのか。

(事務局)

基本は平日の昼間を想定しているが、部会のメンバーの賛成があれば、土日や夜でも対応可能である。みどりの活動を見学する場合は、その取り組みが実施されている日時に合わせる必要があるため必ずしも平日とは考えていない。

(委員)

部会員は出席の義務が生じるのか。

(事務局)

義務として縛りがあると活動が制限されると考えており、参加が難しいときは無理に参加しなくても構わないと考えている。

(以下意見なし)

議題4 その他について

(委員)

部会準備会が、8月下旬とあるが、日程についてはどのように決めるのか。

(事務局)

8月下旬はあくまで目安である。部会への参加希望等に応じて日程についても決めたい。

(以下意見なし)

(会長)

それでは以上で推進会議を終了します。お疲れ様でした。

以上